

リフォーム成功の秘訣

三次元的発想で 全体のバランスをとる

ライフスタイルの変化や設備の老朽化で使えなくなっても、愛着のある我が家には長く住みたいもの。そこで注目されるのがリフォームだ。数多くのリフォームを手がけ、和室が絶対お勧めと語るデザイナーの大塚則幸さん。最近のトレンドは「エレガンス」と話す。これまでの具体的事例やリフォームに当たってのポイントなどを聞いた。

女性主導で キッチンや お風呂を快適に

中古マンションを購入して全面改装する人や、二十〜三十年経過した戸建て住宅をライフスタイルの変化に応じてリフォームする人が増えていきます。その場合女性が主導権を握ることが多く、キッチンなどの水回りが中心です。実は、私たちはキッチンで生活の大半を過ごしているんです。

よ、キッチンは食事をする場であるだけでなく、子どもが宿題をしたり、テレビを見るなど家族が集まるところ。寝室以外はキッチンにいる時間が一番長いのです。また風呂好きな日本人は、バスタブやシャワーヘッドにこだわったりもします。男性主導となるリフォームのきっかけとしては、電気設備が生活に合わないことが挙げられます。二十〜三十年前と比較して、テレビやパソコンなどの家電製品が増えたからです。

しつらえのいい 和室をつくる 幅広い用途も魅力

私のリフォームのお勧めは絶対「和室」です。私たちの生活スタイルは欧米化していますが、日本人のDNAには畳の感覚が残っていると思います。暑い夏に寝転んだあのひんやりとした感覚、冬はこたつで温まる。これまで和室経験のなかった人でも「畳って気持ちいいね」と言ったりします。安っぽい壁紙や畳ではなく、しつらえのいい和室を作ることです。そして和室には洋服ダンスを置いたりせず、何もないシンプルな部屋にするといでしょう。

住まいづくり新時代 広告特集



キッチンが家族のコミュニケーションの場

文化の押し付けはしません。和室はサステナブル(持続可能)な空間だと思います。リビングにも、ダイニングにもゲストルームとしても使用できます。さまざまな用途があることも、私が和室を勧める理由です。私が手がけた横浜のマンションは、水回りをはじめ全面的にリフォームしました。玄関を入り、左右をつなぐ廊下が共有スペースになっています。依頼者は蝶の標本が趣味で、共有スペースをギャラリーに見立てました。さらに二つあったバスルームの一つをシャワールームにしました。全面十和田石張り天井はヒ

家の長寿命を追求するには「本物の素材」を使用することがです。戸建て住宅であれば、フローリングは無垢(むく)の木を使用すると、二十年以上は長持ちします。どうしても薄い単板層では、スリッパ履きでも十年程度で表面がはがれてきます。リフォームを建築家やデザイナーに依頼する人の多くは、時代を反映したり、これまでの機能に何かプラスしたいと期待するからです。最初に要望をはっきり聞きたいと思いますが、ある程度は任せたいという人もいます。一般の人は二次元的な発想で見られる傾向がありますが、私たちはプロは三次元的発想で空間と全体のバランスを考えています。機能性が高く快適な空間を作るために、私たちデザイナーや建築家の知恵を活用し、豊かな生活を過ごしてほしいと思います。



インテリアデザイナー 大塚則幸 さん

おつか・のりゆき 1960年福井県武生市(現:越前市)生まれ。卒業後、1年間渡欧。帰国後プラスチックスタジオ&アソシエイツにおいてインテリアデザイン担当。1990年大塚ノリユキデザイン事務所設立。「無のようであり、混在のようである透明な空間」をテーマにブティック、レストラン、ホテルオブジェ、住宅などを手がける。メーカーと共同開発で越前和紙を使用したロールスクリーンのパターンデザインでは、2007年度グッドデザイン賞受賞。

トレンドは エレガンス 専門家の知恵活用

最近のリフォームのトレンドは「エレガンス」。商業空間でも欧米の高級感と日本文化の良さが求められています。これまでの住宅ではあまり使用しなかつた建材やタイルを、リビングにも使用するケースが増えています。さまざまなタイルの組み合わせで、エレガントなパターンができます。またタイルは耐久性も長く、数十年は大丈夫。壁紙より値段は高めですが、ライフスタイルが変わる団塊の世代に人気です。ベッドルームや子ども部屋にタイルを張ると面白いデザインができるかもしれませんね。

ノキを使っています。しつらえのいい和室も作りました。

リフォーム成功の秘訣
三次元的発想で
全体のバランスをとる

リフォームの満足は、「人」で決まります。
INAX LIFA
0120-179346